



金子務教授履歴書・業績目録など

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-05-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/8857

金子 務教授履歴書

本籍 神奈川県鎌倉市常盤九三七番地の一八五
住所 五九三 堺市大野芝町三三府大宅舎四一〇三 電話〇七二二一三七一三〇五七
二四八 鎌倉市常盤九三七一八五 電話〇四六七一三一八九三六
氏名 金子 務 カネコ ツトム 男 昭和八年(一九三三)一月三〇日生

学 歴

昭和二四年 四月
同二七年 三月
同二七年 四月
同二九年 四月
同三二年 三月

東京慈恵会医科大学付属高校入学
同卒業
東京大学教養学部理科Ⅱ類入学
東京大学教養学部教養学科科学史及び科学哲学分科進学
同卒業(教養学上)

職

歴

昭和三年 四月
 同 年 五月
 同 三年 四月
 同 三九年 九月
 同 四二年 八月
 同 年 二月
 同 四四年 三月
 同 年 七月
 同 四五年 六月
 同 年 七月
 同 五三年 九月
 同 五四年 四月
 同 五八年 九月
 同 五九年 二月

読売新聞社編集局記者として入社
 同地方部宇都宮支局勤務
 同出版局科学読売編集部勤務
 同出版局週刊読売編集部勤務
 海外特派（インド・イラン・エジプト・ソ連）約一ヵ月・連載「世界を考える」取材
 海外特派（小笠原・グアム）約一〇日・小笠原返還取材
 海外特派（韓国）約一〇日間・米韓合同軍事演習取材
 海外特派（米國）約四〇日・アポロ一号取材
 読売新聞社退社
 中央公論社入社・雑誌編集局自然編集部次長
 海外取材（サイパン・グアム）約一週間
 海外取材（米國）約二週間・アインシュタイン資料調査
 中央公論社雑誌編集局w i l l編集部次長
 海外視察（西独）約二週間・西独政府招待、経済誌視察団長

同五九年一月	海外取材（スイス）約二週間・スイス時計産業会招待
同六〇年 三月	中央公論社退社
同六〇年 四月	大阪府立大学総合科学部教授・同大学院総合科学研究科（修士課程）教授に就任（現在に至る） 科学思想史・現代科学論・科学技術思想・論理学・総合研究序論担当
平成 二年 四月	国際日本文化研究センター共同研究員・「日本人の自然観」班 （平成四年三月まで） 同「環境と文明」班（平成六年三月まで）
同五年 四月	大阪府立大学評議員・総合情報センター所長兼学術情報部長（任期二年・平成七年三月まで）
同	国際日本文化研究センター共同研究員・「総合雑誌の総合的研究」班（現在に至る）
同六年 四月	大阪府立大学大学院人間文化科学研究科（新設博士課程）教授（現在に至る） ・比較科学思想担当
同	放送大学客員教授（現在に至る） ・番組「宇宙観の歴史と人間」主任講師
同	総合研究大学院大学共同研究員・「生命科学と生命観、20世紀における発展と変遷」班（現在に至る）
同七年 四月	大阪府立大学評議員・総合情報センター所長兼学術情報部長（再任・平成九年三月まで）
同九年 三月	大阪府立大学定年退職
△非常勤講師▽	
昭和五四年 四月	東京電機大学工学部非常勤講師・科学技術史
同五五年 四月	工学院大学非常勤講師・科学思想史

同五六年	四月	中央大学法学部非常勤講師・自然科学概論
同五七年	四月	東京大学教養学部教養学科非常勤講師・科学社会学
同五八年	四月	東海大学理学部大学院非常勤講師・科学教育論
同五九年	四月	東京大学教養学部教養学科非常勤講師・科学史
同六〇年	四月	学習院女子短期大学非常勤講師・文化史演習
平成 一年	四月	大阪女子大学非常勤講師・物理学特論
△学内委員▽		
昭和六二年	四月	大阪府立大学大学院委員会委員 (平成四年三月まで)
同		同人試運営委員会委員兼出題採点委員会副委員長
同		同人試運営委員会委員兼出題採点委員会委員長 (同六四年三月まで)
同六三年	四月	同補導委員 (平成二年三月まで)
同		大阪府立大学公開講座企画委員会委員 (平成九年三月まで)
平成 二年	四月	同委員長 (同二年三月まで)
同		大阪府立大学国際交流委員会委員 (同四年三月まで)
平成 五年	四月	大阪府立大学将来計画委員 (同九年三月まで)

同	同自己点検評価制度委員会委員(同)
同	同教育課程編成委員会委員(同)
同	同学術交流会館運営委員会委員(同)
昭和六二年二月	公務出張(イスラエル他)約二週間・アインシュタイン資料調査
同六三年七月	公務出張(インドネシア)約一週間・パリ人間工学国際会議
同六三年一〇月	公務出張(イスラエル)約三週間・アインシュタイン資料調査
平成一年八月	公務出張(イスラエル・イギリス)約三週間・アインシュタイン資料調査
同一年一〇月	公務出張(オランダ)一〇日間・日蘭大学学術交流訪問団団員
平成二年一月	公務出張(イスラエル)約二週間・アインシュタイン資料調査
同二年四月	公務出張(イスラエル・イギリス)約二週間・アインシュタイン国際会議
同五年七月	公務出張(スペイン・ポルトガル)約一週間・国際科学史学会・ポルトガル発見委員会訪問
同八年二月	公務出張(イギリス)一〇日間・ロンドン王立協会資料調査
△海外出張▽	

学会並びに社会における活動

△学会▽

昭和五年 四月
 同五年 四月
 同五年 四月
 同六年 四月
 同六年 九月
 同六年一〇月
 平成二年 六月
 同四年 二月
 同六年 四月
 同四年 六月
 同年 七月
 同年 八月
 同七年 四月

ゲーテの自然科学の集い会員（現在に至る）
 科学基礎論学会会員（同）
 日本科学史学会会員（同）
 同学会全体委員（平成五年まで）
 医学倫理学会会員（現在に至る）
 形の科学会会員（同）・同運営委員（同）・同学会誌編集委員（同）
 日本文化会議会員（平成六年まで）
 形の文化会会員・幹事（現在に至る）
 同副会長（同）
 比較文明学会会員（同）
 ホワイトヘッド・プロセス学会会員（同）
 宮沢賢治学会会員（同）
 国際比較文明学会会員（同）

△社会▽

昭和六一年 四月
 同六三年 四月
 同 同
 平成 一年 一月
 同 四年 四月
 同 五年 二月
 同 五年 四月
 同 同

日本科学協会評議員・企画委員（同六三年三月まで）
 日本科学協会理事・企画委員（現在に至る）
 堺市緑化推進協議会委員・同専門委員（同）
 日蘭修交三八〇年記念事業科学技術フォーラム実行委員会委員長
 堺市国際化問題懇話会委員・同座長（現在に至る）
 日本ポルトガル友好四五〇年記念シンポジウム実行委員会委員長
 大阪府公立図書館協議会委員（現在に至る）
 公立大学図書館協議会副会長（七年三月まで）
 同協議会会長（八年三月まで）
 同協議会副会長（現在に至る）

賞

昭和五六年一二月

罰

第三回サントリー学芸賞（社会風俗部門）
 イン・シヨック』全一巻に対して

サントリー文化財団 著書『アインシュタ

金子 務 教授業績目録

著書(単著/共著/監修)

書名	単著・共著	発行所	刊行年月日
一、廃物を科学する ―大量消費時代への挑戦	単	早川書房	一九六五年 四月三〇日
二、宇宙からの声がかきこえる ―異星間通信と宇宙文明	単	大日本図書	一九七七年 二月一〇日
三、科学と哲学の界面 (「アインシュタインのアジア体験 ―上海・香港で見た一九二二年の中 国」 pp. 185-204)	共	朝日出版社	一九八一年 四月二五日
四、アインシュタイン・シヨック 全二巻 第一巻 大正日本を揺がせた四十三日間 第二巻 日本の文化と思想への衝撃	単	河出書房新社	一九八一年 七月一日
五、思考実験とはなにか ―その役割と構造を探る	単	講談社	一九八六年 三月二〇日
六、科学史ノートI	単	啓林館	一九八七年 四月一日
七、科学技術をどう読むか ―文科系人間のための一〇〇冊	単	マネジメント社	一九八七年 四月三〇日
八、比較科学史の地平 (「科学理論受容の比較文化的問題」 pp. 291-327)	共	培風館	一九八九年 一〇月三〇日

<p>九、The Comparative Reception of Relativity (BSPS Vol. 103) Ed. T. F. Glick (Einstein's Impact on Japanese Intellectuals, pp. 351-379)</p> <p>一〇、科学史ノート II</p> <p>一一、アインシュタインはなぜアインシュタインになったのか</p> <p>一二、自立する科学史学 (伊東俊太郎先生選歴記念論集) 〔アインシュタインの思考実験〕 pp. 97-115)</p> <p>一三、世紀末から新世紀末へ (「科学の世紀末・新世紀末」 pp. 236-249)</p> <p>一四、アインシュタインの天使</p> <p>一五、アインシュタイン・ショック (新装増補版) 全三巻 第一巻 大正日本を揺がせた四十三日間 第二巻 日本の文化と思想への衝撃</p> <p>一六、アインシュタイン・ロマン―I 黄泉の時空から</p> <p>一七、ガリレオたちの仕事場 ―西洋科学文化の航図</p>	<p>共</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>単</p> <p>監修</p> <p>単</p>	<p>D. Reidel</p> <p>啓林館</p> <p>平凡社</p> <p>北樹出版</p> <p>筑摩書房</p> <p>哲学書房</p> <p>河出書房新社</p> <p>日本放送出版協会</p> <p>筑摩書房</p>	<p>一九八七年一〇月一日</p> <p>一九八八年 四月一日</p> <p>一九九〇年 四月一六日</p> <p>一九九〇年 四月二五日</p> <p>一九九〇年 七月二五日</p> <p>一九九一年 四月二六日</p> <p>一九九一年 四月二八日</p> <p>一九九一年 四月二〇日</p> <p>一九九一年 八月二〇日</p>
--	--	--	--

<p>一八、生命―「もの」と「かたち」 木村雄吉先生遺稿集 （「生命の形と思想―木村雄吉先生 の研究遍歴を貫くもの」 pp. 271-289）</p> <p>一九、織田信長―戦国革命児の実像 （「信長の知的好奇心と科学技術」 pp. 72-75）</p> <p>二〇、私は神のパズルを解きたい ―アインシュタイン・ドキュメント</p> <p>二一、科学とはなにか ―二のフォーカス （「モデル」pp. 177-190, 「科学共同体」pp. 191-214）</p> <p>二二、アインシュタイン、ひとを語る ―序文を中心に</p> <p>二三、さらばアリストテレス ―エピソード科学史異聞</p> <p>二四、ファジィの科学と思想 （「科学思想としてのファジィネス」 pp. 33-87）</p> <p>二五、世界の中のラフカディオ・ハーン （「アインシュタインの訪日と ハーン体験」pp. 387-397）</p>	<p>共編</p> <p>共編</p> <p>監修</p> <p>共編</p> <p>単編</p> <p>共編</p> <p>共編</p>	<p>学会出版センター</p> <p>日本放送出版協会</p> <p>哲学書房</p> <p>北樹出版</p> <p>東海大学出版会</p> <p>平凡社</p> <p>日刊工業新聞社</p> <p>河出書房新社</p>	<p>一九九一年二月一〇日</p> <p>一九九一年二月一〇日</p> <p>一九九二年二月一日</p> <p>一九九二年四月一〇日</p> <p>一九九三年四月一五日</p> <p>一九九三年四月二〇日</p> <p>一九九三年五月三〇日</p> <p>一九九四年二月二日</p>
---	---	--	---

<p>二六、宇宙観の歴史と人間</p> <p>三〇、大正生命主義と現代 (「藤村における生命主義と科学主義」 —石原純・河上肇らとのパリ村の対話」 pp. 104-114)</p> <p>三一、日本人の自然観 (「新自然観としての四次元問題」 —宮沢賢治『春と修羅』序を中心に」 pp. 397-428)</p> <p>三二、Katachi U Symmetry (The spiral recognition in the East and the West, pp. 373-380)</p> <p>三三、環境倫理と環境教育 (講座・文明と環境第14巻) (「森Ⅱ迷宮」的自然観と環境科学」 pp. 90-109)</p> <p>三四、アインシュタイン劇場</p> <p>△その他▽</p> <p>一、宇宙からの声がかきこえる</p> <p>二、物理学事典(西川哲治編)</p> <p>三、日本歴史大辞典</p> <p>四、日本史大事典</p>	<p>単</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p>放送大学教育振興会</p> <p>河出書房新社</p> <p>河出書房新社</p> <p>青土社</p> <p>朝倉書店</p> <p>Springer-Verlag</p> <p>大日本図書</p> <p>培風館</p> <p>河出書房新社</p> <p>平凡社</p>	<p>一九九五年 三月二〇日</p> <p>一九九五年 三月三〇日</p> <p>一九九五年 八月二五日</p> <p>一九九六年 二月一日</p> <p>一九九六年 三月二五日</p> <p>一九九六年 九月一〇日</p> <p>一九七七年二月一〇日</p> <p>一九八三年 四月一日</p> <p>一九八六年 四月一日</p> <p>一九九二年一月二八日</p>
--	---	---	--

<p>五、「文明と環境」・「高度技術社会」共同研究会会議録（文部省科学研究費補助金・平成4年度重点領域研究 総括報告 p. 231-235）</p>	<p>共</p>	<p>モービル石油</p>	<p>一九九三年 三月三〇日</p>
<p>六、Only Yesterday 1893-1993 （「アインシュタインと相対性理論」 pp. 38-39）</p>	<p>共</p>	<p>モーター石油</p>	<p>一九九三年 五月二二日</p>
<p>七、アインシュタイン ―伝記・世界を変えた人々19 （Fiona Macdonald: Albert Einstein, Exley Pub., 1992 の邦訳）</p>	<p>解説</p>	<p>偕成社</p>	<p>一九九四年 三月一日</p>
<p>八、アインシュタイン ―二〇世紀の扉を開いた相対論 （犬上博史作・山本キクオ一画。丸善コミック）</p>	<p>校閲</p>	<p>丸善</p>	<p>一九九四年 三月二五日</p>
<p>九、世界全史 （「時計・羅針盤・海図」 pp. 350-351、「望遠鏡と顕微鏡」 pp. 540-541.）</p>	<p>共</p>	<p>講談社</p>	<p>一九九四年 一月一五日</p>
<p>一〇、ブリタニカ国際大百科事典（第1巻「アインシュタイン」 pp. 107-109.）全面改訂第3版。</p>	<p>共</p>	<p>TBSブリタニカ</p>	<p>一九九五年 七月一日</p>
<p>一一、成語大辞苑 （アインシュタイン・アルキメデス・エウクレイデス・ガリレオ・ケクレ・ヒポクラテス・パラケルスス・ポアンカレ・ライプニッツの成語13項目）</p>	<p>共</p>	<p>主婦と生活社</p>	<p>一九九五年 九月二九日</p>

<p>二二、宮沢賢治ハンドブック 「アインシュタイン」 pp. 12-13 「四次元」 pp. 205-206</p>	<p>共</p>	<p>新書館</p>	<p>一九九六年 六月二五日</p>
<p>訳書(単訳/共訳/監訳) 一、パズル・ピクチュア 一冊でみる科学入門 (By Ruchlis : Discovering Scientific Method, Harper & Row, 1963(訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九六五年 七月一〇日</p>
<p>二、一〇〇万人の相対性理論 (Martin Gardner : Relativity for Million, MacMillan, 1962(訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九六六年 六月 六日</p>
<p>三、相対性理論への認識 (Bertrand Russell : The ABC of Relativity, George Allen & Unwin, 1958(訳))</p>	<p>共</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九七一年 六月二五日</p>
<p>四、宇宙パズル 一、パズルで覚える天文学 (Martin Gardner : Puzzle Picture, Simon & Schuster, 1971(訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九七二年 二月二九日</p>
<p>五、わが相対性理論 (Albert Einstein : Über die Spezielle und Allgemeine Relativitätstheorie, Friedr. Vieweg & Sohn, 1916, 1956(訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九七三年 一月三〇日</p>

<p>六、おかしなデータ・ブック (R. Howink : The Odd Book of Data, American Elsevier, 1965 (S訳))</p>	<p>単</p>	<p>朝日出版社</p>	<p>一九七八年 六月 一日</p>
<p>七、異星人との知的交信 (Ed Carl Sagan : Communication with Extraterrestrial Intelligence, The MIT Press, 1973 (S訳))</p>	<p>共</p>	<p>河出書房新社</p>	<p>一九七六年 二月 二〇日</p>
<p>八、青春のインシニユタイン —創造のヘルン時代— (Max Flückiger : Albert Einstein in Bern, Paul Haupt, 1974 (S訳))</p>	<p>単</p>	<p>東京図書 新装版 新装・改訂版</p>	<p>一九七八年 二月 二五日 一九八五年 二月 二〇日 一九九一年 四月 二五日</p>
<p>九、宇宙の極限 —ブラックホール・白色矮星・超巨星— (Franklyn M. Branley : Black Holes, White Dwarfs, and Superstars, Harper & Row, 1976 (S訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九七九年 二月 二〇日</p>
<p>一〇、科学エリート —ノーベル賞受賞者の社会学的考察— (Harriet Zuckerman : Scientific Elite - Nobel Laureates in the United States, Macmillan Publ. Co., 1977 (S訳))</p>	<p>監訳</p>	<p>玉川大学出版局</p>	<p>一九八〇年 二月 二五日</p>
<p>一一、かくれた世界 —幾何学・四次元・相対性— (Rudolf v. B. Rucker : Geometry, Reality and The Fourth Dimension, Dover Publ., 1977 (S訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九八一年 九月 一〇日</p>

<p>一三、変むろー (Isaac Asimov : Change!, Houghton Mifflin Co., 1981 (訳))</p> <p>一四、形・モデル・構造 —現代科学のひそむ美意識と直観 (Ed. Judith Wechsler : On Aesthetics in Science, The MIT Press, 1979 (訳))</p> <p>一五、神は老獪にして… —アインシュタインの人と学問 (Abraham Pais : Subtle is the Lord... - The Science and the Life of Albert Einstein, Oxford University Press, 1982 (訳))</p> <p>一六、形の冒険 (Lancelot Law Whyte : Accent on Form, 1954 (訳)) 解説「L. L. ホワイトト体験とその思想的意義」</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>監訳</p> <p>共</p> <p>解説</p>	<p>河出書房新社</p> <p>河出書房新社</p> <p>白揚社</p> <p>産業図書</p> <p>工作舎</p>	<p>一九八二年 四月一〇日</p> <p>一九八四年 五月二五日</p> <p>一九八六年 四月三〇日</p> <p>一九八七年 一月三〇日</p> <p>一九八七年 二月二五日</p>
---	--	---	--

<p>二一〇、宇宙の測り方 上・下 アシモフのS-I単位系ガイド (Isaac Asimov : The Measure of the Universe, Harper & Row, 1983(訳))</p> <p>二二、特殊および一般相対性理論について (「わが相対性理論」の改訳・改題)</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九九一年 四月三〇日</p>
<p>一九、蒸気機関からエントロピーへ ー熱学と動力技術 (D. S. L. Gardwell : From Watt to Clausius - The Rise of Thermodynamics in the Early Industrial Age, Heinemann Educational Books, 1971(訳))</p>	<p>監 訳</p>	<p>平凡社</p>	<p>一九八九年 八月三日</p>
<p>一八、四次元の冒険 ー幾何学・宇宙・想像力 (Rudy Rucker : The Fourth Dimension - A Guided Tour of the Higher Universes, Houghton Mifflin Co., 1984(訳))</p>	<p>監 訳</p>	<p>工作舎</p>	<p>一九八九年 四月三〇日</p>
<p>一七、自然のパターン ー形の生成原理 (Peter S. Stevens : Patterns in Nature, Little, Brown and Co. 1982(訳))</p>	<p>単</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九八七年 七月二〇日</p>

<p>二二、相対性理論の哲学 — ラッセル、相対性理論を語る (既刊「相対性理論への認識」の改訳・ 改題)</p> <p>二三、未知への旅立ち — アインシュタイン 新自伝ノート</p> <p>二四、量子論理の限界 (Peter Gibbins : Particles and Paradoxes — The Limits of Quantum Logic, Cambridge University Press, 1987, 1991 (訳))</p> <p>二五、エロロジ — — 起源とその展開 (Anna Bramwell : Ecology in the 20th Century, A History, Yale University Press, 1989 (訳))</p> <p>二六、相対性理論が驚異的によくわかる (Martin Gardner : The Relativity Ex- position, Random House Inc., 1976 (訳))</p> <p>二七、思考の道具箱 — 情報・数・空間・論理・無限 (Rudy Rucker : Mind Tools, The Five Levels of Mathematical Reality, 1987 (訳))</p>	<p>単</p>	<p>編 訳</p>	<p>白揚社</p>	<p>一九九一年 六月一五日</p>
<p>監 訳</p>	<p>共</p>	<p>小学館 産業図書</p>	<p>河出書房新社</p>	<p>一九九二年 八月一日 一九九二年 五月二九日</p>
<p>監 訳</p>	<p>単</p>	<p>白揚社 工作舎</p>	<p>河出書房新社</p>	<p>一九九二年 一月一日 一九九二年 三月二〇日</p>

二八、自然のパターン 一形の生成原理(新装改訂版) (Peter S. Stevens: Patterns in Nature, Little, Brown and Co. 1982 © Rev.)	単	白揚社	一九九四年 三月二五日
---	---	-----	-------------

論 文

論 文 名	単著・共著 の 別	発 表 誌	刊 行 年 月 日	発 行 者
一、ゲーテの生命的技術観 一『Einstein's View of Japanese Culture』	単	『モルフォロギア』 第五号 pp.52-68 Historia Scientiarum 第十七号 pp.51-76	一九八三年一月三日	ゲーテ自然科学 の集い
三、科学技術の進展と大学	単	『教育改革研究』第六号 pp.20-28	一九八五年 四月二五日	東海教育研究所
四、現代技術の諸断面	単	『科学サロン』第九卷 第二号 pp.8-16	一九八五年 五月二〇日	東海大学出版会
五、思考実験、そのレトリカルな構 造 ―ガリレオの論法に即して―	単	『大阪府立大学紀要』 (人文・社会科学) 第三四巻 pp.17-31	一九八六年 三月二〇日	大阪府立大学

<p>六、L・L・ホワイト体験とその思想的意義</p> <p>七、アインシュタイン―創造の軌跡―第一部 未発表処女論文と若き日の夢想</p> <p>八、「王立協会秘書」以前のオルデンブルク ―十七世紀後半ヨーロッパの科学通信網の形成へ―</p> <p>九、事物の科学曼陀羅 (連載8回)</p> <p>一、望遠鏡と新哲学 二、観測遠征隊の思想 三、温度計目盛と標準化 四、暗号術とブライオリティ 五、顕微鏡のレトリック 六、モデルとしての機械時計 七、象徴図形から記号体系へ 八、複数世界とE.Tへの夢</p> <p>一〇、小林秀雄の「科学観」</p> <p>一一、造形的思想の脈絡 ―ホワイトとゲーテ</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p>	<p>『形の冒険』(ホワイト著・幾島幸子訳) pp. 307-328</p> <p>『人文科学論集』第五集 pp. 39-58</p> <p>『大阪府立大学紀要』 (人文・社会科学) 第三五卷 pp. 17-31</p> <p>『無限大』第七五号― 八四号</p> <p>第七五号 pp. 103-111 第七六号 pp. 94-105 第七七号 pp. 114-125 第七八号 pp. 80-93 第七九号 pp. 121-133 第八〇号 pp. 107-121 第八一号 pp. 77-93 第八二号 pp. 115-129 第八四号</p> <p>『文学』第五五卷 第一二号 pp. 187-193</p> <p>『モルフォロギア』 第一〇号 pp. 2-22</p>	<p>一九八七年 二月二五日</p> <p>一九八七年 三月二五日</p> <p>一九八七年 三月二〇日</p> <p>一九八七年 九月一日 一九八〇年 七月二五日</p> <p>一九八七年 二月一〇日</p> <p>一九八八年 二月二七日</p>	<p>工作舎</p> <p>大阪府立大学人文学会</p> <p>大阪府立大学</p> <p>日本IBM</p> <p>岩波書店</p> <p>ゲーテ自然科学の集い</p>
---	---	---	--	---

<p>一二、アインシュタイン 一 創造の軌跡 一 第二部 チュリーリッヒ学生時代の彷徨</p>	単	『人文学論集』第六集 pp. 1-18	一九八八年 三月二五日	大阪府立大学人文学会
<p>一三、『フィロソフィカル・トラ ンザクシヨンス』の誕生 一 王立協会秘書時代のオルデンブルク</p>	単	『大阪府立大学紀要』 (人文・社会科学) 第三六巻 pp. 31-46	一九八八年 三月二〇日	大阪府立大学
<p>一四、科学通信網の形成と初期郵便事情</p>	単	『大阪府立大学紀要』 (人文・社会科学) 第二七巻 pp. 55-70	一九八九年 三月二〇日	大阪府立大学
<p>一五、科学・存在・自由 一 アインシュタイン思想をめぐる一書簡</p>	単	『人文学論集』第八集 pp. 1-16	一九九〇年 三月二五日	大阪府立大学人文学会
<p>一六、パラドックスから見た科学史</p>	単	『数理科学』第二八巻 第八号 pp. 10-15	一九九〇年 八月一日	サイエンス社
<p>一七、アカデミー 一 学者たちの森 その一</p>	単	『無限大』第八五号 pp. 114-129	一九九〇年一〇月二五日	日本IBM
<p>一八、エコロジー主義の歴史批判</p>	単	『アステイオン』 第一九号 pp. 176-181	一九九一年 一月一日	TBSブリタニカ
<p>一九、アインシュタインのラッセル哲学批判</p>	単	『人文学論集』第九・ 十集 pp. 1-20	一九九一年 三月二五日	大阪府立大学人文学会
<p>二〇、プリンストンのアインシュタイン訪日資料</p>	単	『物理学史ノート』第一 巻第一号 pp. 53-61	一九九一年 三月二〇日	物理学史通信刊行会

<p>二二、アカデミー — 学者たちの森 その二</p> <p>二三、アインシュタインの訪日 とハーン体験</p> <p>二四、科学的推論におけるモデルの役割</p> <p>二五、科学と信仰を駆ける「銀河鉄道」 (特集・大正神秘主義と詩の世界)</p> <p>二六、生命記憶と古代形象 — 三木形態学の詩的宇宙 (三木成夫著『生命形態学序説』 pp. 294-307)</p> <p>二七、同時性をめぐって — ベルクソン v.s. アインシュタイン (特集・△時間論△の現在)</p> <p>二八、自然の「記号—書物」観 とガリレオ的科学</p> <p>二九、らせん認識の東西 — 建築・ねじ・ポンプ・科学 (特集・アジアの形を読む)</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>単</p>	<p>『無限大』第八七号 pp. 110-127</p> <p>『無限大』第八八号 pp. 145-149</p> <p>『化学学研究集録』 第三号 pp. 1-9</p> <p>『現代詩手帳』第三五卷 第九号 pp. 96-102</p> <p>『現代思想』第二一巻 第三号 pp. 178-189</p> <p>『人学論集』第一一集 pp. 31-47</p> <p>『形の文化誌』第一号 pp. 52-65</p>	<p>一九九一年 四月二五日</p> <p>一九九一年 八月二五日</p> <p>一九九二年 三月二二日</p> <p>一九九二年 九月 一日</p> <p>一九九二年 一月 三日</p> <p>一九九三年 三月 一日</p> <p>一九九三年 三月 一日</p> <p>一九九三年 二月二〇日</p>	<p>日本IBM</p> <p>日本IBM</p> <p>大阪府立大学文学 化学研究科</p> <p>思潮社</p> <p>うぶすな書院</p> <p>青土社</p> <p>大阪府立大学人 文学会</p> <p>工作舎</p>
--	--	--	---	---

<p>二九、身体知の基盤としての三木 形態学 (特集・三木成夫の世界)</p>	<p>三〇、『春と修羅』序と四次元問 題(特集・宮沢賢治 —四次元のヴェイジオネール)</p>	<p>三一、アインシュタイン劇場 (連載12回)</p>	<p>一、ニュートンの遺産 二、技術的知性の沃野 三、光の迷宮と同時性 四、対称性への美的希求 五、創造のゲシュタルト 六、科学の「詩と真実」</p>	<p>七、失敗のコスモロジー</p>	<p>八、無重力と思考実験問題</p>	<p>九、悪魔の法か、解放の式か</p>	<p>一〇、スピノザの神と決定論 旅するユダヤ主義者 一一、神の散子と原理物理学</p>	<p>一二、環境問題における科学史の 役割</p>	<p>一三、科学と社会 —「科学ジャーナリズム遠近」 私観</p>
<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	<p>単</p>	
<p>『現代思想』第二〇巻第 二号 pp. 78-81</p>	<p>『ユリイカ』第二〇巻 第四号 pp. 170-185</p>	<p>『現代思想』第二二巻 第五号—第二三巻第二号</p>	<p>第二二巻第四号 pp. 8-21 第二二巻第六号 pp. 8-21 第二二巻第七号 pp. 8-23 第二二巻第八号 pp. 8-21 第二二巻第九号 pp. 8-21 第二二巻第一〇号 pp. 8-23</p>	<p>第二二巻第一二号 pp. 8-23</p>	<p>第二二巻第一三号 pp. 8-25</p>	<p>第二二巻第一四号 pp. 8-25</p>	<p>第一三巻第一号 pp. 8-23 第一三巻第二号 pp. 8-25 第一三巻第三号 pp. 8-23</p>	<p>『科学史研究』II 第三三 巻第一九一号 pp. 160-162, 167-169</p>	<p>『新聞研究』第五二〇号 pp. 14-17</p>
<p>一九九四年 三月 一日</p>	<p>一九九四年 四月 一日</p>	<p>一九九四年 四月 一日 一九九四年 五月 一日 一九九四年 六月 一日 一九九四年 七月 一日 一九九四年 八月 一日 一九九四年 九月 一日</p>	<p>一九九四年 一〇月 一日</p>	<p>一九九四年 十一月 一日</p>	<p>一九九四年 十二月 一日</p>	<p>一九九五年 一月 一日 一九九五年 二月 一日 一九九五年 三月 一日</p>	<p>一九九四年 九月 二七日</p>	<p>一九九四年 一月 一日</p>	
<p>青土社</p>	<p>青土社</p>	<p>青土社</p>	<p>青土社</p>	<p>青土社</p>	<p>青土社</p>	<p>日本科学史学会</p>	<p>日本新聞協会</p>		

論文訳

<p>三四、怪奇なる人工風景 ―乱歩の「パノラマ島奇談」をめぐって</p> <p>三五、空間の陰影としての次元問題 (特集・高次元多様体)</p> <p>三六、身体知を支える構造 (特集・生命の形・身体<small>の</small>形)</p> <p>三七、『太陽』創刊期に見る科学技術観</p> <p>三八、科学的理解とTV表現</p> <p>三九、聖と呪の星型図形</p>	<p>単</p> <p>単</p> <p>単</p> <p>共</p> <p>単</p>	<p>『国文学・解釈と鑑賞』 第五九巻第一二二号 pp. 65-69</p> <p>『現代思想』第二五巻 第五号 pp. 64-74</p> <p>『形の文化誌』第三号 pp. 44-55</p> <p>『国際日本文化研究センター紀要』 第一三三号 pp. 119-130</p> <p>『放送教育開発センター研究紀要』 第一三三号 pp. 131-149</p> <p>『形の文化誌』第四号</p>	<p>一九九四年二月一日</p> <p>一九九五年五月一日</p> <p>一九九六年一月三〇日</p> <p>一九九六年三月三一日</p> <p>一九九六年三月三一日</p> <p>一九九六年二月一〇日</p>	<p>至文堂</p> <p>青土社</p> <p>工作舎</p> <p>日文研</p> <p>工作舎</p> <p>放送教育開発センター</p> <p>工作舎</p>
<p>一、A. ケストラ、 原子論と全体論を超えて</p> <p>二、L・P・ウィリアムズ、 科学哲学の先駆者アンペール</p> <p>三、バーンスタイン、 ブラックホールを否定したアイ ンシュタイン</p>	<p></p>	<p>『現代思想』第一巻 第六号 pp. 126-141</p> <p>『日経サイエンス』 第一九巻第三号 pp. 92-100</p> <p>『日経サイエンス』 第二六巻第八号 pp. 82-89</p>	<p>一九七三年六月一日</p> <p>一九八九年三月一日</p> <p>一九九六年八月一日</p>	<p>青土社</p> <p>日本経済新聞社</p> <p>日本経済新聞社</p>

その他

評論・随想・記事 (A) 読売時代(署名記事のみ)

論稿名	発表紙誌 (巻号)	刊行年月日
一、地球の内部にメスをいれる	『科学教育 ニュース』 第九二号	一九五九年 七月
二、スプートニクから宇宙ステーションまで	『科学教育 ニュース』 第九七号	一九五九年 二月
三、コメのなかの水銀	『科学読売』	一九六〇年 二月
四、国際テレビ中継の諸問題	『月刊日本 テレビ』 第二九号	一九六一年 五月
五、私はオオカミ少年に会った (67世界を考える14 / インド)	『週刊読売』	一九六七年 一〇月 六日
六、「死者の町」に生きるがめついやつ (67世界を考える15 / エジプト)	『週刊読売』	一九六七年 一〇月 三三日

七、魔法のジュウタンと地上のフリー (67世界を考える17 / イラン)	『週刊読売』	一九六七年 一〇月 二七日
八、黒衣からひざ上へ： イラン、フアラール・ディバ (現代に生きる女性系 四〇回)	『読売新聞』 (日曜版)	一九六七年 一〇月 二九日
九、競馬とジャズに熱あがるモスクワっ子 (67世界を考える19 / ソ連)	『週刊読売』	一九六七年 一月 一〇日
一〇、「赤い花嫁さん」は白いミニスカート (67世界を考える20 / ソ連)	『週刊読売』	一九六七年 一月 二四日
一一、宇宙時代の青春： ソ連、ボルコンスカヤ (現代に生きる女性系 四四回)	『読売新聞』 (日曜版)	一九六七年 一月 二六日
一二、現地ルポ 帰ってくる小笠原 ーベトナムで米軍とともに戦っている若者たち	『週刊読売』	一九六七年 二月 二九日

<p>一三、小笠原諸島、冒険とロマンを誘う二十年ぶりの島々</p>	<p>『世界の秘境シリーズ』 pp. 68-73</p>	<p>一九六八年 七月</p>
<p>一四、つぎの発火点は朝鮮半島か・米韓合同大演習現地報告</p>	<p>『週刊読売』</p>	<p>一九六九年 四月 四日</p>
<p>一五、ルポ緊迫の38度線(特集・日本の防衛)</p>	<p>『週刊読売』 臨時増刊</p>	<p>一九六九年 四月 五日</p>
<p>一六、希望村の日韓3青年・韓国の土にいさる</p>	<p>『読売新聞』 (日曜版)</p>	<p>一九六九年 四月 三日</p>
<p>一七、発進! アポロ11号その周辺(特派報告)</p>	<p>『週刊読売』</p>	<p>一九六九年 七月 二四日</p>
<p>一八、ついに踏んだ「月」の感触(特派報告)</p>	<p>『週刊読売』</p>	<p>一九六九年 八月 一日</p>
<p>一九、アポロ11号が持ち帰った月の土</p>	<p>『週刊読売』 臨時増刊</p>	<p>一九六九年 八月 三〇日</p>
<p>二〇、アメリカ社会の中でのピーナツブックス(C・M・シュルツ『もーれつるしー』谷川俊太郎・徳重あけみ訳、の解説)</p>	<p>『週刊読売』</p>	<p>一九六九年 十月 一九六九年 一月</p>
<p>二一、アポロ13号悪戦苦闘の四日間</p>	<p>『週刊読売』</p>	<p>一九七〇年 五月 一日</p>

評論・随想・記事 (B) 中公時代(署名記事のみ)

論 稿 名	発表紙誌 (巻号)	刊行年月日
一、シンクタンク、その日本の風土	『PR ニュース』 第五六号	一九七〇年二月
二、おかしなおかしな数の物語(連載四〇回)	『週刊読売』	一九七一年一月 以降
三、編集災害とアポロ・システム	『予防時報』 第八八号	一九七二年一月
四、自然力のスケール	『予防時報』 第一〇一号	一九七五年二月
五、世界の科学誌	『無限大』 第三一号	一九七六年九月
六、引き裂かれた科学の行方	『公明新聞』	一九七七年 七月 二六日
七、ノーベル賞とはいうけれど	『月刊エコノミスト』 第八巻 第二号	一九七七年二月
八、数モノマニアの世界からの伝言	『翻訳の世界』 第三巻第八号	一九七八年 八月

<p>九、思い出の大正科学史 (対談)</p> <p>一〇、アインシュタイン・ブームの背景</p> <p>一一、科学社会学への期待</p> <p>一二、アインシュタインの滞日記</p> <p>一三、英文翻訳懸賞・審査と講評</p> <p>一四、科学史家の見た両大戦の間 (シンポジウム・司会)</p> <p>一五、年表 一九二〇、三〇年代の科学</p> <p>一六、日本の科学ジャーナリズム</p> <p>一七、アルバート父子と日本</p> <p>一八、マンローとアインシュタイン</p>	<p>『無限大』 第三九号</p> <p>『無限大』 第三九号</p> <p>『科学サロン』 第二卷第二号</p> <p>『読売新聞』 (夕刊文化欄)</p> <p>『翻訳の世界』 第五卷第三号</p> <p>『無限大』 第四九号</p> <p>『無限大』 第四九号</p> <p>『科学サロン』 第四卷第四号</p> <p>『学燈』 第七八卷 第一二号</p> <p>『学燈』 第七九卷 第一号</p>	<p>一九七八年 五月</p> <p>一九七八年 五月</p> <p>一九七八年 二月</p> <p>一九七九年 六月 二三日</p> <p>一九八〇年 三月</p> <p>一九八〇年 六月</p> <p>一九八〇年 六月</p> <p>一九八〇年 六月</p> <p>一九八一年 二月</p> <p>一九八二年 一月</p>
--	--	---

<p>一九、湯川秀樹とアインシュタイン</p> <p>二〇、文科系社員がいま読むべき科学の本五〇冊(臨増「サラリーマン科学読本」)</p> <p>二一、雑誌つまみ食い(毎月連載11回)</p> <p>二二、往復書簡のこと</p> <p>二三、アインシュタインと日本</p> <p>二四、82科学界を振り返ってみる</p> <p>二五、華麗なる反骨精神 —晩年の玉虫文一先生</p> <p>二六、会田軍太夫先生の思い出</p>	<p>『学燈』 第七九号 第四号</p> <p>『文芸春秋』 第六九卷 第五号</p> <p>『週刊文春』</p> <p>『武蔵野ペン』 第三〇号</p> <p>『教養学部報』 第二八一号</p> <p>『公明新聞』</p> <p>『科学史研究』 第二期 第二二卷 第一四五号</p> <p>『会田軍太夫先生追悼文集』</p>	<p>一九八二年 四月</p> <p>一九八二年 四月</p> <p>一九八二年 二月 一八日、 二月 九日</p> <p>一九八二年 九月</p> <p>一九八二年 一月</p> <p>一九八二年 二月 二二日</p> <p>一九八三年 春</p> <p>一九八三年 五月</p>
--	---	---

<p>二七、エントロピーとは何かーエネルギーの「悪魔的誤解」と実体 (座談会)</p> <p>二八、わが国の宇宙開発の現状と将来</p> <p>二九、テクノサイエンス (毎週連載・計二五回)</p> <p>三〇、L・L・ホワイトとホロニズム</p> <p>三一、これからのエンジニア (対談) ー未来は無限・ライフサイエンス</p> <p>三二、オリンパス辰野事業場訪問レポート</p> <p>三三、ドイツ「シリコンバレー」の夢と現実</p> <p>三四、アインシュタインの未来への遺産</p>	<p>『エネルギーレビュー』 第三巻第七号</p> <p>『公明新聞』</p> <p>『週刊読売』</p> <p>『GRAPHICARTON』 第八号 (通巻第一九七号)</p> <p>『リクルートタイムズ』 第一一四三号</p> <p>『Mr. OLYMPUS』</p> <p>『Wii』 第三巻第五号</p> <p>『日本版オムニ』 第三巻第六号</p>	<p>一九八三年 六月</p> <p>一九八三年 八月</p> <p>一九八三年 九月 一八日ー八四年 三月一日</p> <p>一九八四年 一月</p> <p>一九八四年 四月</p> <p>一九八四年 五月</p> <p>一九八四年一〇月</p>
---	---	--

<p>三五、「光の白昼夢」を追って</p> <p>三六、スイスが生んだ最高級ジュエリー・ウォッチ</p> <p>チー ージュネーブ「モントレ・ビジュ展」を見る</p> <p>三七、「実験」科学の成立と問題点</p>	<p>『あれきてる』 第一六号冬号</p> <p>『Wii』 第四巻第二号</p> <p>『医学概論』 (講義録)</p>	<p>一九八五年 一月</p> <p>一九八五年 二月</p> <p>一九八五年 三月</p>
---	---	---

評論・随想・記事 (C) 大阪府立大学時代

論 稿 名	発表紙誌 (巻号)	刊行年月日
一、求められる独創性と回帰性	『読売新聞』 (論壇)	一九八五年 六月 一九日
二、科学史ノート (連載50回)	『啓林』 第二一六号 (二六五号 (高理編))	一九八六年 四月 一九日
一、'science' という言葉	第二一六号	一九八六年 四月
二、'scientist' をめぐる賛否	第二一七号	一九八六年 五月
三、進化と'evolution'	第二一八号	一九八六年 六月

四、素粒子と'on族 五、'reaction'という考 え 六、'gene'をめぐる進化 七、'entropy'の定義を めぐる 八、'geology'の長い変 遷 九、'world'の起源と進化 一〇、科学の'law'の出 現 一一、アインシュタイン の卒業試験 一二、メンデルレーエフの 元素観と周期律 一三、ガリレオとらせん ポンプ 一四、ガッサンデイと船 上実験 一五、ベルツェリウスの 元素記号 一六、光と色 一七、ニュートンとゲーテ 速度の算出 一八、'crystal'が結晶 になるとき 一九、温度計と摂氏目盛 りの起源 二〇、水文学的大循環と ハレー	第二一九号 第二二〇号 第二二一号 第二二二号 第二二三号 第二二四号 第二二五号 第二二六号 第二二七号 第二二八号 第二二九号 第三三〇号 第三三一号 第三三二号 第三三三号 第三三四号 第三三五号	一九八六年七月 一九八六年九月 一九八六年一〇月 一九八六年十一月 一九八六年十二月 一九八七年一月 一九八七年三月 一九八七年四月 一九八七年五月 一九八七年六月 一九八七年七月 一九八七年九月 一九八七年一〇月 一九八七年十一月 一九八七年十二月 一九八八年一月 一九八八年三月
--	---	---

二一、酸とアルカリの初 期論争 二二、慣性としての'Py erita' 二三、レーヴェンフック の顕微鏡 二四、「プラトンの問い」 と'ad hoc'理論 二五、ハーヴェイの心臓 ポンプ説 二六、ロバとネコは死ん だのか? 二七、ワットの蒸気機関 とブラットの潜熱 二八、ベクレル父子とウ ランウム放射能 二九、アントロビー原理 と造形原理 三〇、ラブラスの神と魔 三一、ブルハーフェと 火の元素 三二、ナノ、ピコ、ギガ テラの記数法 三三、ドルトンの原子記 号 三四、プラトンの正多面 体と世界構成 三五、ダーヴィン進化論 と5つのイメーヅ 三六、ガリレオ以前の relativity 三七、ケプラーの宇宙モ デル	第三三六号 第三三七号 第三三八号 第三三九号 第三四〇号 第三四一号 第三四二号 第三四三号 第三四四号 第三四五号 第三四六号 第三四七号 第三四八号 第三四九号 第三五〇号 第三五一号 第三五二号	一九八八年四月 一九八八年五月 一九八八年六月 一九八八年七月 一九八八年九月 一九八八年一〇月 一九八八年十一月 一九八八年十二月 一九八九年一月 一九八九年三月 一九八九年四月 一九八九年五月 一九八九年六月 一九八九年七月 一九八九年九月 一九八九年一〇月 一九八九年十一月
--	---	--

三八、ワットの化学上の実験	第二五三号	一九八九年二月
三九、ハッブルによる宇宙後退速度の発見	第二五四号	一九九〇年一月
四〇、アルキメデスの「燃焼鏡」実験	第二五五号	一九九〇年三月
四一、ピサの斜塔の実験とガリレオ	第二五六号	一九九〇年四月
四二、アインシュタインと原爆責任神話	第二五七号	一九九〇年五月
四三、グーテンベルクと印刷術	第二五八号	一九九〇年六月
四四、プランク定数 h の出現	第二五九号	一九九〇年八月
四五、"color" の起源	第二六〇号	一九九〇年九月
四六、ケクレの二つの夢	第二六一号	一九九〇年一〇月
四七、フィードバック制御の起源	第二六二号	一九九〇年十一月
四八、グラフ表示の起源	第二六三号	一九九〇年十二月
四九、"biology" の成立	第二六四号	一九九一年一月
五〇、リンゴの落下とエレーベータ	第二六五号	一九九一年三月
三、高度情報社会における女性と科学性	『News Letters』 第七二号	一九八六年 四月 三〇日
四、思考実験は単なる夢ではない	『科学新聞』 第二一五四号	一九八七年 一月 二三日
五、アインシュタインの手切れ金	『新潮45』	一九八七年 六月

六、アインシュタイン、愛と研究の書簡集	『毎日新聞』 (夕刊) 文化欄	一九八七年 七月 一四日
七、相対論への助走	『日本版 オム二』 第六巻第一号	一九八七年 五月
八、アインシュタインのラブレター	『日本版 オム二』 第六巻第五号	一九八七年 九月
九、アインシュタインの大学受験	『日本版 オム二』 第六巻第六号	一九八七年一〇月
一〇、アインシュタインの就職運動	『学燈』 第八四巻 第一〇号	一九八七年一〇月
一一、アインシュタインの健康法	『月刊健康』 第三一四号	一九八八年 三月
一二、ケプラーの弱視と心眼	『月刊健康』 第三二五号	一九八八年一二月
一三、外国文化を知ること	『大阪府大学 学術振興基金 第二号』	一九八九年 二月
一四、かたちと生命	『医学概論』 (講義録)	一九八九年 三月

<p>一五、人工物、またはアルトフアクトのかたち</p>	<p>『The Inter-技術論文集』第七号</p>	<p>一九八九年 四月</p>
<p>一六、大学教授のキャンパス日記 (「たまには、大学周辺も探険してみないか」)</p>	<p>『蛍雪時代』付録 第五九巻 第四号</p>	<p>一九八九年六月</p>
<p>一七、世紀末科学思想と二三の話題</p>	<p>『かがくさろん』第一三巻 第四号</p>	<p>一九八九年 八月</p>
<p>一八、ノーベル賞からみた化学の進歩</p>	<p>『化学』第四四巻 第一一号</p>	<p>一九八九年十一月</p>
<p>一九、日蘭修交三八〇年 科学技術フォーラム 一、オランダ渡りの科学技術</p>	<p>『無限大』第八三号</p>	<p>一九八九年十二月</p>
<p>二、日蘭の科学技術交流 (シンポジウム)</p>	<p>『数学セミナー』第二九巻 第二号</p>	<p>一九九〇年 二月</p>
<p>二一、アインシュタインの創造性と妻の役割</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年 五月 二七日</p>

<p>二二、SSC超伝導大型加速器は生まれるか</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年 六月 二四日</p>
<p>二三、アメリカで進むヒト遺伝子の地図づくり</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年 七月 二九日</p>
<p>二四、地球温暖化の元凶、二酸化炭素</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年 九月 三〇日</p>
<p>二五、脳死は死か否か?</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年一〇月 二八日</p>
<p>二六、相対性博士の原稿ハウマツチ</p>	<p>『日経新聞』文化欄</p>	<p>一九九〇年十一月 二七日</p>
<p>二七、破壊される熱帯林</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年十一月 二五日</p>
<p>二八、火星に人類を</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九〇年十二月 二三日</p>
<p>二九、純国産ロケット H²</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九一年 一月 二七日</p>
<p>三〇、スギ花粉症</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九一年 二月 二四日</p>
<p>三一、師の死</p>	<p>『月刊健康』第三四六号</p>	<p>一九九一年 三月</p>
<p>三二、迫られる宇宙のゴミ対策</p>	<p>『公明新聞』科学欄</p>	<p>一九九一年 三月 二四日</p>

<p>三三、アルバート・ アインシュタイン (連載 天才・偉人た ちの光と影 ⑩)</p> <p>三四、蔵書に見る 「アインシュタインの 読書」</p> <p>三五、創造的発見、「落 下」に見た非凡な考察</p> <p>三六、科学・三つの誤解 知識獲得には共通理解</p> <p>三七、宇宙ゴミ問題、衛 星残骸の落下増える</p> <p>三八、知の冒険者アイン シュタイン</p> <p>三九、科学出版界の危機 敬遠される論理思考力</p> <p>四〇、知恵ある技術、持 続可能な開発目指せ</p>	<p>『Ut an』 第一〇巻 第一〇四号</p> <p>『朝日新聞』 夕刊文化欄</p> <p>『神戸新聞』 夕刊科学欄</p> <p>『神戸新聞』 夕刊科学欄</p> <p>『神戸新聞』 夕刊科学欄</p> <p>『月刊アドバ タイジング』 第三六巻 第八号 (第四二二号)</p> <p>『神戸新聞』 夕刊科学欄</p> <p>『神戸新聞』 夕刊科学欄</p> <p>『神戸新聞』 夕刊科学欄</p>	<p>一九九二年 三月</p> <p>一九九二年 四月</p> <p>一九九二年 五月</p> <p>一九九二年 六月</p> <p>一九九二年七月 八日</p> <p>一九九二年 七月</p> <p>一九九二年 七月</p> <p>一九九二年 七月</p> <p>一九九二年 八月</p> <p>一九九二年 八月</p>
---	---	---

<p>四一、科学は新しい文化 です (トークタイム・イン タビュール)</p> <p>四二、相対論における原 理的なるもの明示 (特集・二〇世紀を揺 るがした二冊)</p> <p>四三、なぜ、いまアイン シュタインなのか</p> <p>四四、市街地の緑(社寺 林、屋敷林)の保全に ついて(高橋理喜男氏 ら5人) パネル討論記録</p> <p>四五、師と読んだ最後の 一書 未来とらえ続け た思想家</p> <p>四六、日本の科学研究振 興と国際化の果たす役 割(座談会)</p> <p>四七、科学的想像力の現 場(連載4回) 一、ロンドン塔での科 学者と三人のマキ</p>	<p>『リビング 京都』 第六三〇号</p> <p>『数学 セミナー』 第三〇巻 第一〇号</p> <p>『産経新聞』 夕刊文化欄</p> <p>『緑のフォー ラム』 報告書</p> <p>『科学朝日』 第五一巻 第一一号</p> <p>『科学新聞』 第二三九二号</p> <p>『プリン キピア』 第九号</p>	<p>一九九二年 八月 三一日</p> <p>一九九二年 九月 第一〇号</p> <p>一九九二年 九月 二日</p> <p>一九九二年一月</p> <p>一九九二年一月</p> <p>一九九二年一月</p> <p>一九九二年 一月 一日</p> <p>一九九二年 一月</p> <p>一九九二年 一月</p>
---	---	---

<p>二、光の魔術を駆使した画家と顕微鏡師</p>	<p>第一〇号</p>	<p>一九九二年 四月</p>
<p>三、ラビュータの予言と科学的計算力</p>	<p>第一一号</p>	<p>一九九二年 七月</p>
<p>四、自然のイメージ ―「書物」と「迷宮」</p>	<p>第二二号</p>	<p>一九九二年一〇月</p>
<p>四八、読書日録 (上中下3回)</p>	<p>週刊読書人 一九二二― 二三号</p>	
<p>上・アインシュタインの写真 中・「形の文化会」準備に追われる下・じっくりと考えるたいテーマ</p>	<p>第一九二二号 第一九二二号 第一九二三号</p>	<p>一九九二年 二月 一九九二年 三月 一九九二年 二月</p>
<p>四九、アインシュタイン落語―#七―〇ライプツァンネル―二―(インタールコムニケーション ション '91)</p>	<p>『電話網の中の見えないミュージアム』</p>	<p>一九九二年 三月</p>
<p>五〇、フラムステイード―科学史紀行</p>	<p>『啓林』 第二七五号</p>	<p>一九九二年 三月</p>
<p>五一、理解可能性ということ</p>	<p>『世界思想』 第一九号</p>	<p>一九九二年 四月</p>

<p>五二、インタビュール・金子務(二〇世紀の現代宇宙論)</p>	<p>『Sagas』 第一一卷 第一〇―一二号</p>	<p>一九九二年 四月</p>
<p>五三、共同討議・一九九〇年代思潮を読み直す (特集：大正生命主義 山折哲夫・中村雄二郎・鈴木貞美氏と)</p>	<p>『文芸』 第三一卷 (第三号)</p>	<p>一九九二年 八月</p>
<p>五四、ホーキングの創造性</p>	<p>『児童心理』 第四六巻 第一〇号</p>	<p>一九九二年 八月</p>
<p>五五、湯川秀樹・中間子理論と「混沌」の哲理 (特集：「老荘」を読む)</p>	<p>『プレジデント』 第三〇巻 第一一号</p>	<p>一九九二年一月</p>
<p>五六、対談・形とはなにか―三木成夫を中心 (特集：形とはなにか 養老孟司氏と)</p>	<p>『現代思想』 第二〇巻 第一一号</p>	<p>一九九二年一月</p>
<p>五七、座談会・科学の最前線をどう読むか</p>	<p>『マリ・クレール』 第一一卷 第一二号</p>	<p>一九九二年二月</p>

<p>五八、萬有対談・金子務 ／後藤繁雄 我々が考えている宇宙 像の探求っていうのは 五九、『ワットたちの仕 事場』ほか コラム・書きたいテー マ・出したい本 六〇、アインシュタイン の七つの謎</p> <p>一、なぜ子供時代は劣 等生だったのか 二、なぜ特許局の役人 になったのか 三、なぜ役人でありな がら物理学の研究が できたのか 四、なぜ最初の結婚に 失敗したのか 五、なぜあの当時日本 にやってきたのか 六、なぜノーベル賞の 授賞理由は相対性理 論ではないのか 七、なぜ量子論に終生 反対したのか</p>	<p>『花椿』 第五一四号 『出版 ニュース』 第一六二六号 『科学朝日』 第五三卷 第五号</p>	<p>一九九三年 三月 一九九三年 三月 一九九三年 五月</p>
---	--	---

<p>六一、科学史エッセイ (連載4回) 一、アルキメデスの 「発見」異聞 二、グーテンベルクと 「印刷術」起源考 三、ニュートンのプリ ズム 四、アインシュタイン の失敗 六二、「数の文化史」 管見(特集・「数」の 物語) 六三、形の四面体 ―思想(連載中) 一、荘子 二、乱歩 三、賢治 四、近松 六四、ひらめきの工房 ―科学史から見て 六五、是非の初心から 日々の初心へ 六六、表紙の言葉 (連載12回)</p>	<p>『イリュウム』 第五卷第一号 第五卷 第一号 第五卷第二号 第六卷第一号 第六卷第二号 『is』 第六二号 『形の文化誌』 第一号 第二号 第三号 第四号 『数理科学』 第三二卷第一 号 『アウリオン』 第一号 『自然保護』 第三八三号― 三九四号</p>	<p>一九九三年 五月 一九九三年一〇月 一九九四年 四月 一九九四年一〇月 一九九三年二月 一九九三年二月 一九九四年一月 一九九四年一月 一九九六年二月 一九九六年二月 一九九四年 一月 一九九四年 三月</p>
---	---	--

一、分岐（アワブキの葉）	第三八三巻	一九九四年	四月
二、爆発（サンゴのポリプ）	第三八四巻	一九九四年	五月
三、らせん（クズの芽）	第三八五巻	一九九四年	六月
四、三角形（ヤマオダマキ）	第三八六巻	一九九四年	七月
五、球（ブダイの目玉）	第三八七巻	一九九四年	八月
六、三方向交点（オオカマキリ）	第三八八巻	一九九四年	九月
七、爆発（イソギンチャク）	第三八九巻	一九九四年一〇月	
八、ばね（ゲンノシヨウコ）	第三九〇巻	一九九四年十一月	
九、分裂（モミ）	第三九一巻	一九九四年十二月	
一〇、ひび割れ（スギ）	第三九二巻	一九九五年一月	
一一、角柱（霜）	第三九三巻	一九九五年二月	
一二、渦巻き（シダ）	第三九四巻	一九九五年三月	
六七、中尾佐助コレクシヨンをめぐって（所長対談・保田俊郎氏と）	『アウリオン』第二号	一九九四年	九月
六八、グローバル時代を考える（塚都市政策研究所都市政策セミナー）	『Urban』第五巻	一九九五年	一月

六九、特集・東西文化の出会い （ポルトガル友好四五〇年記念シンポジウム）	『無限大』第九七号	一九九五年	一月
一、ポルトガルが日本に登場するまで			
二、南蛮科学技術の渡来			
七〇、アインシュタインとともに	『教育と研究の思い出』	一九九五年	三月
七一、情報・知識・サーヴィス	『年報・情報』第一号	一九九五年	三月
七二、ジバンギ科学散歩（連載中）	『啓林』高理編	一九九五年	四月
一、平賀源内一	第三〇六号	一九九五年	五月
あゝエレキテル	第三〇七号	一九九五年	五月
二、平賀源内二	第三〇八号	一九九五年	六月
ホルトの木と物産会	第三〇九号	一九九五年	七月
三、宮沢賢治一	第三一〇号	一九九五年	七月
四、宮沢賢治二	第三一一号	一九九五年	九月
森と地球環境	第三一二号	一九九五年	十月
五、三浦按針一	第三一三号	一九九五年	十一月
青い眼の顧問殿様	第三一四号	一九九五年	十一月
六、三浦按針二	第三一五号	一九九五年	十一月
西洋造船術の夜明け	第三一六号	一九九五年	十一月
七、南方熊楠一	第三一七号	一九九五年	十一月
環境保護の草分け	第三一八号	一九九五年	十一月

<p>八、南方熊楠二 民族博物学の野人 九、田辺遼郎 琵琶湖疎水と 一〇、寺田寅彦 風雅な科学の眼 一一、長岡半太郎 科学自立への鬼 一二、華岡青州 麻醉実験の始祖 一三、八坂金兵衛 種子島銃の模倣 一四、支倉常長 遣欧使節の謎</p> <p>七三、鳥捕りのイメージ 狩り</p> <p>七四、ある臨死体験</p> <p>七五、キャンパス・アートをめぐって（所長対談・前田孝氏と）</p> <p>七六、宮沢賢治の魅力（特集・和才洋魂）</p>	<p>第三一三号 第三一四号 第三一五号 第三一六号 第三一七号 第三一八号 第三一九号</p> <p>『新校本・宮澤賢治全集』 第二巻 月報</p> <p>『アーガマ』 第一一三五号 『アウリオン』 第四号 『アーガマ』 第一一三六号</p>	<p>一九九五年二月 一九九六年一月 一九九六年三月 一九九六年四月 一九九六年六月 一九九六年九月 一九九六年十一月 一九九五年七月</p>
---	--	---

<p>七七、新・ノアの箱船</p> <p>七八、討議・消化器系感覚の復権 ―三木成夫の内蔵感覚論の射程 (特集・食の哲学 ―ガストロノマディズム)</p> <p>長沢哲・小林昌廣氏と 七九、ふるさと数学散歩 (連載中) 一、関孝和 算聖の獨創性 二、吉田光由 塵劫記の謎</p> <p>八〇、電子図書館への夢</p> <p>八一、証言・原子物理学 草創期清水栄氏に聞く</p> <p>八二、国際化・情報化と 図書館(留学生座談会)</p> <p>八三、人形とモデル ―芸と科学の皮膜の間</p>	<p>『住まいとまち』 第六八号 『談』 第五三号 (一九九六年冬号)</p> <p>『啓林』 高数編 第三〇〇号 第三〇三号 『産経新聞』 (夕刊文化欄) 『現代思想』 第二四巻 第六号 『アウリオン』 第六号 『あうらーら』 第七号</p>	<p>一九九五年二月 一九九六年二月 一九九六年四月 一九九六年一月 一九九六年五月 一九九六年五月 一九九六年五月 一九九六年五月 一九九六年九月 一九九六年一月</p>
---	--	--

書評

論稿名	発表紙誌 (巻号)	刊行年月日
一、なまなましい動き、成功と失敗の歴史 (N・ボルマー) 『原子力潜水艦』、掘元美訳 朝日新聞社 / 佐貫亦男 『そこに宇宙があるからだ』、講談社)	『図書新聞』第七六八号	一九六四年 八月 一日
二、豊かな話題と知識、第一線の科学者と問答 (荒正人編) 『対話・宇宙探訪』、講談社)	『図書新聞』第七六八号	一九六四年 八月 一日
三、無題 (末永雅雄・井上光貞編) 『高松塚壁画古墳』、朝日新聞社)	『週刊読売』	一九七四年 七月 二九日
四、読書ノート・一つの現象学的議論 (L・ビンズワンガー) 『うつ病と躁病』、山本巖夫他訳 『みずす書房』	『読売新聞』	一九七三年 一月 八日

五、思考する全体論者 (A・ケストラー) 『偶然の本質』、蒼樹書房)	『日本読書新聞』	一九七四年 七月 一日
六、不安と批判を解説、改善を示唆 (B・デイクソン) 『何のための科学か』、増田幸夫・塩川久男 (訳)	『公明新聞』	一九七七年 六月 六日
七、個性的な知的営為 (L・ジョイス編) 『現代の宇宙論』、小尾信弥他訳 (海鳴社)	『日本読書新聞』	一九七七年 六月 一三日
八、科学をいかに救済するか (J・R・ラベッツ) 『批判的科学』、中山茂他訳、秀潤社)	『公明新聞』	一九七七年 九月 二六日
九、過去の夢と未来への勇気を鼓舞 (カール・セーガン) 『エデンの恐竜』、長野敬訳、秀潤社)	『公明新聞』	一九七八年 六月 二六日

<p>一〇、多くの問題提起を 含む (P・B・メダワー 『進歩への希望』、 千原貞郎・鈴子訳、 東京化学同人)</p> <p>一一、ノーベル賞の人物 講談 (科学朝日編『ノーベ ル賞の光と影』、 朝日新聞社)</p> <p>一二、ポラニーの格好な 入門書 (R・ゲルウィック 『マイケル・ポラニー の世界』、長尾史郎 訳)</p> <p>一三、鼻の穴が黒い女性 はお料理上手 (中村政雄『文化人間 のための一〇歳から の科学』、読売新聞 社)</p> <p>一四、「もう一つの科学」 への憧憬を描く (吉岡斉『科学者は変 わるか』、社会思 想社)</p>	<p>『公明新聞』 第一二七八号</p> <p>『科学』 第五一卷 第一二号</p> <p>『東京大学 新聞』 第一三四九号</p> <p>『週刊文春』</p> <p>『日本読書 新聞』 第二二七八号</p>	<p>一九七八年一〇月 三〇日</p> <p>一九八一年二月</p> <p>一九八二年一〇月 五日</p> <p>一九八三年 八月 四日</p> <p>一九八四年一〇月 一五日</p>
---	--	--

<p>一五、ファラデイからア インシュタインへ (Nersessian, N. J.: Faraday to Einstein Constructing Mean- ing in Scientific Theories, M. Nijhoff Pub., 1984)</p> <p>一六、相対性理論の哲学 的次元を解明 (広松渉『相対性理論 の哲学』、勁草書房)</p> <p>一七、無題 (三島昭男『森からの メッセージ』、新潮 社/岸根卓郎『新し い国づくりを目指し て―農都融合社会シ ステム』、春秋社)</p> <p>一八、科学を知的ゲーム と見る (C・J・シンターマン 『サイエンティスト ゲーム』、山崎え い訳、学会出版セ ンター)</p>	<p>『学燈』 第八二巻 第六号</p> <p>『週刊 読書人』 第一六二八号</p> <p>『緑の文明』 第一号</p> <p>『日経 サイエンス』</p>	<p>一九八五年 六月 五日</p> <p>一九八六年 四月 一四日</p> <p>一九八六年 四月</p> <p>一九八八年 二月</p>
---	---	--

<p>一九、数学パラノイア (D・J・アルバース 他編『数学人群像』、 一松信監訳、近代科学 社)</p>	<p>『数学 セミナー』 第二七卷 第七号</p>	<p>一九八八年 七月</p>
<p>二〇、成功仕事+策略 +宣伝 (ガリー・トープス 『ノーベル賞を獲っ た男』、高橋真理子 ・溝江昌吾訳、朝日 新聞社)</p>	<p>『科学朝日』 第四九卷 第三号</p>	<p>一九八九年 三月</p>
<p>二一、大衆化する天才の イメージと芸術の 反乱 (A・J・フリードマ ン他『アインシュタ イン「神話」』、沢田整 訳、地人書館)</p>	<p>『科学』 第五九卷 第五号</p>	<p>一九八九年 五月</p>
<p>二二、英国の科学技術の 衰微の原因を探る (D・S・L・カード エル『科学の社会史』、 宮下晋吉他編訳、昭 和堂)</p>	<p>『週刊読書人』</p>	<p>一九八九年 八月 一四日</p>

<p>二三、詩人科学者の真骨 頂 (三木成夫『生命形態 の自然誌―解剖学論 集』、うぶすな書院)</p>	<p>『文化会議』 第二五〇号</p>	<p>一九九〇年 四月</p>
<p>二四、プリンストン研究 所の過去・現在・未来 (エド・レジス『アイ ンシュタインの部屋』 上・下、大貫昌子訳、 工作舎)</p>	<p>『週刊読書人』</p>	<p>一九九〇年 二月 一二日</p>
<p>二五、歴史再構築への 視線 (P・チュイリエ 『ニュートンと魔術 師たち』、高橋純 訳、工作舎)</p>	<p>『図書新聞』 第二〇三九号</p>	<p>一九九一年 一月 二六日</p>
<p>二六、「ベルの定理」 軸にウイットに富ん だ量子論入門 (ニック・ハーバー ト『量子と実在』、 はやしはじめ訳、 白揚社)</p>	<p>『科学朝日』 第五一卷 第二号</p>	<p>一九九一年 二月</p>

<p>二七、情報科学構築の夢を追う (西垣通『デジタル・ナルシス』、岩波書店)</p> <p>二八、キリスト教護教論の中で反論 (トンマゾ・カンパネッラ『ガリレオの弁明』、沢井繁男訳、工作舎)</p> <p>二九、ガリレオ自身の釈明を先取り (トンマゾ・カンパネッラ『ガリレオの弁明』、沢井繁男訳、工作舎)</p> <p>三〇、AI研究、思想上の欠陥を解剖 (ヒューバート・L・ドレイファス『コンピュータには何ができないか』、黒崎政男・村松修訳、産業図書)</p>	<p>『文化会議』 第二六九号</p> <p>『日本 経済新聞』</p> <p>『図書新聞』 第二〇八〇号</p>	<p>一九九二年一月</p> <p>一九九二年一月 一七日</p> <p>一九九二年二月 七日</p> <p>一九九二年 五月 三日</p>
--	--	---

<p>三一、SF以上に生々しい空想実録 (マイケル・コリンズ『二〇〇四年火星への旅』、高橋健次訳、草思社)</p> <p>三二、アインシュタインの未発表資料を精査、実在論の真意を解明した労作 (A・フアイン『シェイキーゲーム ーアインシュタインと墨子の世界』、町田茂訳、丸善)</p> <p>三三、ジャンル別ブックガイド・宇宙一〇冊</p> <p>三四、根深い男女差を問う (ロンダ・シービン『科学史から消された女性たち』、小川真理子・藤岡信子・家田貴子訳、工作舎)</p>	<p>『日本 経済新聞』</p> <p>『日経 サイエンス』 第二二巻 第二一〇号</p> <p>『マリ・ クレール』</p> <p>『北海道新聞』 同時掲載、中 日新聞・西日 新聞・東京 新聞</p>	<p>一九九二年 九月 一三日</p> <p>一九九二年一〇月</p> <p>一九九二年二月</p> <p>一九九二年二月 二〇日</p>
---	--	---

<p>三五、主著たるにふさわしい内容、近代科学史論三部作の中心に位置する (佐々木力『近代学問理念の誕生』、岩波書店)</p>	<p>『週刊読書人』 第一九六八号</p>	<p>一九九三年 一月 二五日</p>
<p>三六、科学と文学の結合力を証言する 一七、一八世紀の想像 (B・L・B・ド・フオントネル『世界の複数性についての対話』、赤木昭三訳、工作舎)</p>	<p>『図書新聞』 第二〇九八号</p>	<p>一九九三年 一月 三〇日</p>
<p>三七、地球・生命の誕生中心に解く (松井昭典『宇宙誌』、徳間書店)</p>	<p>『日本経済新聞』</p>	<p>一九九三年 三月 一四日</p>
<p>三八、実践的活動家の哲学者 (合田周平『二一世紀日本の選択 共生革命』、につかん書房)</p>	<p>『文化会議』 第二八七号</p>	<p>一九九三年 五月 一日</p>
<p>三九、ユーモアに富む筆致で基本概念説明 (D・ルエール『偶然とカオス』、青木薫訳、岩波書店)</p>	<p>『公明新聞』</p>	<p>一九九三年 五月 二四日</p>

<p>四〇、人類の夢に挑む科学の冒険?暴走? (エド・レジス『不死テクノロジー』、大貫昌子訳、工作舎)</p>	<p>『日本経済新聞』</p>	<p>一九九三年 六月 六日</p>
<p>四一、「交流の父」業績再評価の試み (新戸雅章『超人ニコラ・テスラ』、筑摩書房)</p>	<p>『産経新聞』</p>	<p>一九九三年 八月 一日</p>
<p>四二、「聖域」の今を巧みに (デイウィッド・G・キャンベル『南極が語る地球物語』、笹野洋子訳、講談社)</p>	<p>『北海道新聞』</p>	<p>一九九三年一〇月 一七日</p>
<p>四三、二百万年前の化石人骨発見の記録 (ドナルド・ジョハンソン、ジェイムズ・シュリープ『ルースーの子供たち』、馬場悠男監修、堀内静子訳、早川書房)</p>	<p>『公明新聞』</p>	<p>一九九四年 二月 二一日</p>

<p>四四、人間見据え自然談義 (立花隆ほか『マザー・ネイチャーズ・トーク』、新潮社)</p> <p>四五、数学、力学、神学、錬金術：天才の多面的業績に迫る (リチャード・S・ウエストフォール『アイザック・ニュートン』I・II、田中一郎・大谷隆旭訳、平凡社)</p> <p>四六、人口爆発、人類の存亡占う (松井孝典編著『最後の選択』、徳間書店)</p> <p>四七、生理から社会まで調査 (川道武男『ウサギがはねてきた道』、紀伊国屋書店)</p>	<p>『北海道新聞』</p> <p>『東京新聞』</p> <p>『日本経済新聞』</p> <p>『北海道新聞』</p>	<p>一九九四年 三月 六日</p> <p>一九九四年 三月 六日</p> <p>一九九四年 三月 一三日</p> <p>一九九四年 五月 八日</p>
--	---	--

<p>四八、ハイゼンベルクの苦悩のトリレンマ (トマス・パウルズ『なぜナチスは原爆製造に失敗したか』連合国が最も恐れた男・天才ハイゼンベルクの闘い』上・下、福武書店)</p> <p>四九、量子論批判時代の描写に新味 (マイケル・ホワイット／ジョン・グリビン『素顔のアインシュタイン』、仙名紀訳、新潮社)</p> <p>五〇、二〇世紀最大の物理学者の足跡 (杉元賢治『アインシュタイン博物館』、丸善)</p> <p>五一、水河ミイラの遭難再現 (コンラート・シュピングラー『五〇〇年前の男』、畔上司訳、文芸春秋)</p>	<p>『図書新聞』第二二〇一号</p> <p>『公明新聞』</p> <p>『日経サイエンス』第二四巻第七号 通巻二七四号</p> <p>『北海道新聞』</p>	<p>一九九四年 六月 一日</p> <p>一九九四年 六月 二七日</p> <p>一九九四年 七月 一〇日</p> <p>一九九四年 七月 一〇日</p>
---	--	--

<p>五二、書評 (湯浅赴男『環境と文明』、新評論)</p>	<p>五三、軽妙な語り口で多様な感興そそる (池内紀『二〇世紀博物館』、平凡社)</p>	<p>五四、検証できぬ、神話に漂着 (デヴィッド・リンドリー『物理学の果て』、松浦俊輔訳、青土社)</p>	<p>五五、形の本棚 (マーチン・ガードナー『新版・自然界における左と右』、坪井忠二・藤井昭彦・小島弘訳、紀之國屋書店/ブライアン・バンチ『実在の鏡』、好田順治訳、青土社)</p>	<p>五六、人間が生命作る宣言書 (柴田崇徳・福田敏男編著『人工生命の近未来』、時事通信社)</p>
<p>『比較文明』 第一〇号</p>	<p>『公明新聞』</p>	<p>『日本経済新聞』</p>	<p>『形の文化誌』 第二号</p>	<p>『北海道新聞』</p>
<p>一九九四年一〇月</p>	<p>一九九四年一〇月 一〇日</p>	<p>一九九四年一月 二三日</p>	<p>一九九四年一月</p>	<p>一九九四年二月 二一日</p>

<p>五七、政府の機密公開と知る権利の論議への導火線 (アルバカーキー・トリビューン編『ブルトニウム人体実験』、広瀬隆訳・解説、小学館)</p>	<p>五八、時間非対称で科学再構築狙う (ヒーター・コヴニール、ロジャー・ハイフィールド『時間の矢、生命の矢』、野本陽代訳、草思社)</p>	<p>五九、現場の身体知の重要性強調 (E・S・ファアガソン『技術屋(エンジンニア)の心眼』、藤原良樹・砂田久吉訳、平凡社)</p>	<p>六〇、創造の現場を人間味豊かに (フレッド・ハブゲッツ『マサチューセッツ工科大学』、鶴岡雄二訳、新潮社)</p>
<p>『図書新聞』 第二三三二号</p>	<p>『日本経済新聞』</p>	<p>『日本経済新聞』</p>	<p>『日本経済新聞』</p>
<p>一九九五年 二月 五日</p>	<p>一九九五年 四月 二三日</p>	<p>一九九五年 九月 二七日</p>	<p>一九九五年二月 二二日</p>

<p>六一、刺激的な古代科学史の概説書 (アンドレ・ピション) 『科学の誕生』上・下、山本啓二・中村清訳、せりか書房)</p> <p>六二、宇宙全体の究極の運命 (ポール・デイヴィス) 『宇宙最後の3分間』 出口修至訳、草思社)</p> <p>六三、優れた文明批評として (木下是雄著『物理の樹』、晶文社)</p>	<p>『週刊読書人』 第二一九号</p> <p>『図書新聞』 第二七九号</p> <p>『図書新聞』 第二二八四号</p>	<p>一九九六年 一月 二六日</p> <p>一九九六年 一月 二七日</p> <p>一九九六年 三月 二日</p>
---	--	---